

会 議 録

会議の名称	第28回白岡市地域公共交通会議及び 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会会議
開催日	令和2年1月21日(火)
開催時間	午前10時00分 から 午前11時16分 まで
開催場所	白岡市役所庁舎 4階 特別大会議室
会長の氏名	野口仁史
出席者(出席委員)の氏名・出席者数	栗原夏樹(代理者 清水)、明野真久、細井将司、 佐々木 操、前島雅史、矢島静江、浅野悦子、廣田勝明、岡安和幸、 根岸甚高、關根光敏、尾崎晴男、牧紀水子、野口仁史、酒卷光範、 中村輝久 16人
欠席者(欠席委員)の氏名・欠席者数	鶴岡洋、高原昭、小川幸一、新井政文
説明員の職・氏名	市民生活部 部長 高澤利光 地域振興課 課長 長倉健太郎 地域振興課 公共交通推進室 室長 小林聡一 地域振興課 公共交通推進室 主査 中野立士 地域振興課 市民協働担当 主任 齋藤裕功 企画政策課 課長補佐 千葉智則 企画政策課 主幹 細井唯行
事務局職員の職・氏名	市民生活部 部長 高澤利光 地域振興課 課長 長倉健太郎 地域振興課 公共交通推進室 室長 小林聡一 地域振興課 公共交通推進室 主査 中野立士 地域振興課 市民協働担当 主任 齋藤裕功
その他会議出席者の職・氏名	傍聴者：6名

<p>会議次第</p>	<p>1 開会 2 挨拶 3 会議事項 4 会議事項 (1) 白岡市のりあい交通の運行状況について (2) 地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について (3) 次回契約更新について 5 閉会</p>
<p>配布資料</p>	<p>会議次第 資料1 白岡市のりあい交通事業評価資料 (平成30年10月～令和元年9月) 資料2 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 資料3 白岡市のりあい交通 アンケート調査報告書(暫定版) 資料4 白岡市のりあい交通次期(令和3年度～令和5年度)事業者選定スケジュール その他 菁莪地域買物支えあい実証実験事業の実施結果について</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	1 開会 高澤市民生活部長の進行により会議が開会した。
野口会長	2 挨拶 野口会長から挨拶が行われた。
事務局	3 会議事項 (1) 白岡市のりあい交通の運行状況について 事務局から資料1に基づき、運行状況についての説明が行われた。
野口会長	本件に対する質疑を求める。
A委員	事業者として感じていることを簡単にお話ししたい。 まず収支状況について、今年度は昨年度に比べ、2%減の17.5%であり、少し下がってはいるが、本会議と同様のある会議で運賃の見直しを検討するために各地の収支率を算出させていただいたところ、埼玉県内では白岡市が最も高い収支率であった。他の例を見ると、概ね10%前後で推移しているということなので、昨年度の19.5%という数字は非常に高く、今年度の17.5%というのも埼玉県内で最も高い数字なので、白岡市の現在の収支率は非常に高いと言える。 次に、9ページの『(5) 便別、年代別1日当たり利用状況』についてだが、午前中は年配のかたが通院に利用されることが多く、7便、8便及び9便は保育園に子どもを迎えに行くかたが散見される。 また、9便によく見られるのが通塾で利用する子どもたちや駅から帰宅する中学生くらいの子どもたちであり、若年層の比率が高くなっている。 インターネット予約については、平成30年4月から導入しており、まだ予約数はそこまで多くはないが、若い利用者の

野口会長	<p>予約数が徐々に増加している。電話予約は8時半に開始となるが、そこから30分間は予約電話が集中するため、予約がとりづらいなどの状況も発生している。</p> <p>ただ、インターネット予約の導入前は、予約センターへの電話が繋がらず予約がとれないという御指摘を受けたこともあったが、今ではそのような御意見をいただくことは減ったように感じられる。</p> <p>A委員の報告を受けて、事務局としてはいかがか。</p>
事務局	<p>収支率の目標である20%が高いのか低いのか、手探りの状況であったが、埼玉県内で白岡市が最も高い収支率であるということはまずひと安心というところである。</p> <p>次に利用用途についてだが、通院と駅への移動用途が非常に多く、のりあい交通の利用目的を『高齢者の移動の足』としてアナウンスしていたため、高齢者のかたの利用がかなり多いが、それ以外の年代の利用増加対策にまだまだ攻めあぐねている。しかし、徐々に利用年代層が広がってきているのは、いい傾向だと考えている。このような場で利用用途の拡大や運用の改善策等について、引き続き御意見をいただきたい。</p>
野口会長	<p>着実に利用者が増加しているが、事業者のご努力についても、大きな推進力になっていると考えている。感謝を申し上げます。</p>
事務局	<p>(2) 地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価(案)について 事務局から資料2に基づき、国庫補助金の申請に係る事業評価についての説明が行われた。</p>
野口会長	<p>本件に対する質疑を求める。</p>
B委員	<p>のりあい交通は素晴らしいと思うが、市民が利用しづらいという面ではタクシー券方式もよいのではないかと考える。</p>

	<p>久喜市では、のりあい交通とタクシー券を併用して運行しているということなので、白岡市もその方式を検討してみてもどうかと考える。</p>
野口会長	<p>事務局としてはいかがか。</p>
事務局	<p>貴重な御意見としてちょうだいしたい。 今のところ、のりあいを基軸として公共交通を運行したいと考えているが、今後、様々な状況を勘案して検討したい。</p>
野口会長	<p>他に質疑は。 (質疑はなかったため、議案の承認を求めた結果、原案のとおり承認された。)</p>
事務局	<p>(3) 次回契約更新について 事務局から資料3に基づき、アンケート結果についての説明が行われた。 続いて、事務局から資料4に基づき、のりあい交通業務委託に係る契約更新スケジュールについての説明が行われた。</p>
野口会長	<p>本件に対する質疑を求める。</p>
C委員	<p>2点伺いたい。 まず1点目として、運賃が割引になる乗り合い利用についてだが、少し離れた場所に住むある2人が乗り合い利用をしようとしたら、適用にならないと言われたそうだが、その理由を伺いたい。 次に2点目だが、NPOが運営しているタクシーを利用しているかたがいるようだが、このことについて事務局はなにか知っているか。</p>
事務局	<p>まず1点目について、乗り合い利用が適用になるためには、</p>

	<p>複数名が同じ場所から乗車して同じ場所で降車するという条件が必要となる。乗り合い利用をされる複数のかたが少し離れた自宅の場合、乗降場所となるあらかじめ登録された自宅近くのごみの集積所が異なるため、乗り合い利用の適用とならない。ただし、例えば白岡中央病院から駅まで乗り合い利用されるなど、一緒に利用されれば、目的地から目的地への移動に利用される場合には乗り合い利用となり、割引が適用となる。</p> <p>次に2点目のNPOについては、そういった情報提供をいただいたことはあるが、どなたがどういった運行をされているかという認識までは至っていない状況である。</p>
C委員	<p>了解した。</p>
野口会長	<p>他に質疑は。</p>
D委員	<p>乗り合い利用を奨励するのであれば、「登録したごみの集積所が異なるかた同士の利用の場合、自宅近く of 目的地で待ち合わせてから乗ると割引の適用になる」と周知することを御検討いただいたほうがよいのではないかと考える。</p> <p>また、今回作成されたアンケート結果と事業評価の資料は非常に濃密なデータである。先ほどお話にあがった飽和状態の朝の便をどうしようかなど、これらのデータから色々なことが検討できる材料になるのではないかと思う。</p> <p>事業評価シートについて先ほどA委員からお話があったが、「比較的若いかたが午後の便を意外と利用している」ということを知らない、同じくらいの世代の方々に「こういう利用方法がある」と周知することで利用が増える可能性もあると考える。</p>
野口会長	<p>D委員には検討会議のころから研究者としての立場から適切な御指導をいただいております、この場を借りて感謝を申し上げます。</p>

E 委員	<p>他に質疑は。</p> <p>飽和状態になっている朝の便についてだが、増便をするよりも車両のサイズが大きいワンボックスタイプの車両に変更するほうがコストとしては安く抑えられるのではないかと考えるがいかがか。</p>
野口会長	<p>事務局としてはいかがか。</p>
事務局	<p>今後提案させていただきたい貴重な御意見として受け賜る。</p>
野口会長	<p>他に質疑は。</p>
F 委員	<p>利用したい日の数日前に予約の電話をしたが、予約を入れることができなかったという話を高齢者のかたから聞くことがある。インターネット予約は24時間可能であり、また、電話が混み合う時間にも予約ができるので、電話で予約をするときにはもう予約が埋まっているという状況も発生しているのではないかと思う。予約が集中する時間帯は通院希望の高齢者が多いと思う。その時間帯の便を現行の1時間ごとの運行を30分おきの運行にするなど、御検討いただけるとありがたい。</p>
野口会長	<p>事務局の意見としてはいかがか。</p>
事務局	<p>電話予約とインターネット予約の公平性の担保も課題におきながら、予約が集中する時間帯は増便がいいのか、ワンボックスの車両への変更がいいのか、費用面も視野に入れて検討したい。</p>
野口会長	<p>他に質疑は。</p>

G 委員	<p>『登録者アンケート調査』資料の16ページの『⑤外出時間帯』を見ると、午前7時台の外出が26人となっており、比較的多いことが分かる。また、『未登録者アンケート調査』資料の24ページ『⑤外出時間帯』でも15人という調査結果が出ているため、7時台から運行を開始すれば潜在的な需要を掘り起こせるのではないかと思う。今後の増便時間帯の統計をとるために、試しに1台だけ運行してデータを集計するという手段もよいのではないかと考える。</p>
野口会長	<p>事務局の意見としてはいかがか。</p>
事務局	<p>7時台の外出は通勤のかたが多いのではないかと思うが、のりあい交通を利用していただけのかたがどのくらいいるのか、アンケート調査等分析して検討したいと思う。</p>
高澤部長	<p>4 その他 それでは、最後に次第の4その他として、「菁莪地域買物支えあい実証実験事業」の結果について、担当の企画政策課から説明させていただく。</p>
千葉課長補佐	<p>資料「菁莪地域買物ささえあい実証実験事業の実施結果について」に基づき、説明が行われた。</p>
高澤部長	<p>本件に対する質疑を求める。</p>
F 委員	<p>老人会と民生委員の合同会議の中で、この取り組みに参加したかたがおり、そのかたから、「購入したいものを自分たちで集計し、それを週に一回、業者に移動販売車で持ってきてもらって購入するという方法をとるのはいかがでしょうか」という提案があった。</p>
千葉課長補佐	<p>菁莪地域元気会議など、色々な地域でそういった動きが始まっているので、後ほど改めて詳しくお話を伺って勉強させていただきたい。</p>

高澤部長

先ほどのアンケート結果を見ても、将来的に買い物移動が不安だということが多いことは間違いない事実であり、のりあい交通だけでは乗り切ることができない部分があるため、企画政策課でこういった実証実験を行ったが、皆様には今後とも御意見をお寄せいただきたい。

他になにかございますか。

A委員

タクシー料金についてですが、今まで2kmで740円だった料金が、2月1日から、1.23kmで500円に変更になる。261mごとに100円上がっていくという料金体制で、迎車料金については、今まで1回目の料金メーターが早く上がるという仕組みだったが、今後は迎車料金300円となり、全体的に9%の値上げとなる。今までの値上げはすべて消費税分のものであり、タクシー業界としては13年ぶりの値上げである。13年で最低賃金が200円上がっており、タクシー業界としては吸収できない状況となり、値上げすることになった。

10月に久喜市でタクシー会社が1社廃業したが、人件費等の問題で従業員が集まらないということが原因であった。これはバス業界も同じで、バス業界も十数年値上げをしていない。平成29年までの10年間で、全国でバス路線が13,000km減少している。これは東京からアメリカまで行ける距離であり、これだけの距離がバス業界で減っている。バス業界も人件費等の問題で人が集まらない状況である。

今までの議論をお聞きしていると、のりあい交通だけで答えを出そうという雰囲気を感じる。例えば宮山団地から駅まで1000円強だが、3人で乗ると1人当たり500円以下になる。先ほども地域の皆さんで取り組むという話があったが、複数名が集まってタクシーと一緒に乗ろうとすると、実はのりあい交通より安くなる。さらに、自分たちの好きな時間に帰ってくるができる。

ある地域で行政が推進するデマンド交通を強化した結果、利益が出ないので赤字路線を廃止したいという意見がバス会社か

ら出たことがある。赤字路線のマイナスを一部の黒字路線の収益でカバーしているというのがバス会社の実状で、可能であれば赤字路線を廃止したいという本音がある。

のりあい交通だけで、もしくはバスやタクシーだけですべてを解決できるとは思っていないので、ぜひ会議の中でバスやタクシーの活用方法も併せて議論したい。

白岡から岩槻、春日部路線のバス路線が廃止されたのは、おそらく利用者が少ないからで、多ければ路線は増えるはず。実際に利用者が増えているバス路線もある。ということは、どれだけ利用してもらえるかということを中心に考えることができれば、東口方向のバス路線開通の可能性もあると思っている。

のりあい交通だけですべてやろうとせず、バスやタクシーも合わせた地域の公共交通について議論していただかないと、バスもタクシーもない空白地になってしまう。そうすると、今後税収も下がっていく中で、のりあい交通だけで、市がすべての費用を出すのか、ということになってしまう。色々な視点から、また、様々な方向から力を出し合っていくことが最も重要だと思っている。のりあい交通だけではなく、バスやタクシーも上手に利用していただきながら、白岡市内の公共交通を使っていただくことをお願いしたい。

高澤部長

貴重な御意見をありがとうございました。

本協議会にバスやタクシーの運行事業者の皆様に入っているのも、行政の公共交通と共存、共栄しながら市民の皆様の移動手段を確保していく目的のためである。のりあい交通ですべてやっていくというのは不可能なので、バスやタクシー、のりあい交通、それと先ほどお話にあった市民のかたのNPOなど、新たな形のものや色々なものがうまく絡まり合いながら、今後、高齢化が進む中で、市民のかたの移動手段になっていくことが重要だと考える。現状ではなかなか良い形が見えてきてはいないが、今後皆様からお知恵をいただきながら、それぞれの役割を高めていきたいと考えている。

佐々木副会長

5 閉会

佐々木副会長から挨拶が行われた。

議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するため、ここに署名する。

令和 年 月 日